

青春の揚げソー

女の子にモテたい以上のバンドを組む理由があるだろうか？しかも両親の離婚、バラバラな家族、荒れた高校への転向、イジメ、唯一の救いは音楽マニアの兄と見るロックPV、史上サイターの十四歳、コナーは、突然現れたイカす彼女を振り向かせたくて、「僕のバンドのビデオに出ない」と声を掛けるんだ、まだバンドどころか友達もいないのに。

映画シング・ストリートの舞台は一九八五年のダブリン、もはや懐メロに近い八〇年代のロックと共に、様々な障害



を乗り越えて炸裂していくコナーの魂。そっぴや僕がバンドを始めたのは中学二年だったな理由はヘッポコだったけど。

グッと来る映画を有楽町で見たら、急転直下の小石川。母校の目の前にある藤森パンは、昼休みだけ校内の店で調理パンを売ったんだ。大好きだった揚げソーセージパン、通称揚げソー。カレー味のパンの中には魚肉ソーセージ。一口で四十数年遡るタイムマシンさ。



高野金次郎商店

親切第一 平成28年7~8月号

版元:東京ペンギン堂本舗・高野ひろし 豊島区北大家2-26-2

fax:03-3917-1949 RXM04421@nifty.com

協力:高島平電腦研究所、築地河岸工房

関連ウェブ:各種検索エンジンで「東京ペンギン堂本舗」検索すると関連ウェブに辿り着けます。http://jpg.arrow.jp/

勝手にお気に入り5

- ・村野藤吾設計、有楽町読売会館(旧そごう、現ビックカメラ)ビューポイント5
- ・階段手摺りのカーフと、上位階の蹴上デザイン
- ・トイレ洗面所の外壁側のガラスブロック
- ・国際フォーラムからの外観
- ・二階エスカレーター部分の吹き抜け処理
- ・よみうりホールのお宝

銀の輔銀座千枚



たかったりしてね。お隣のガラス張りビル、未だに入ったことない。ちょっと気後れしちゃうって。だって高級ブランド中心なんでしょ。そういう世界は、そういうのが似合う人に任せとく。見上げ

てたよ。植え込みとベンチと遊歩道を上手いこと混ぜ込んだ、オシャレな憩いのスポットに変身してたんだ。ほら、お隣のつかいファッションビルも春に完成したでしょ？ 何だかセツで気分一新って感じ。

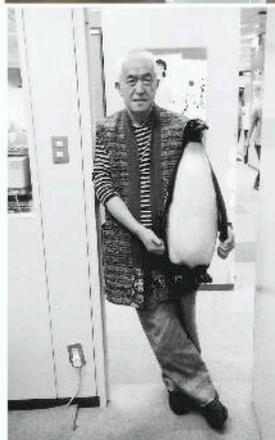
公園の見張り番・若い時計台が、随分と奥まった場所に引込んだ。実は工事中の時、こっちは僕が銀座なんから気になってたんだ。鉄扉の向こう側に見えてたから。今までは晴海通り近くにデパートと鎮座してただけ、邪魔だったのかね？ それとも後ろの泰明小学校に近寄って、若々しい声を聞き



永さんに出会えた幸せを考えてながら歩こう

僕が初めて永さんを見掛けたのは、多分ジアンジアンズのイッセー尾形さんだと思えますよ。ああテレビと同じだって、妙に感動した記憶があるんです。マルセ太郎さんと東京ボーイズのライブでもよく見たけれど、結局声を掛けられず、ただ勝手に作ったミニコミ紙を送り付けるだけの月日が過ぎたんです。

永さんもよくご存知、演芸プロデューサーというより面白芸人発掘の名人、木村万里さんの紹介で、2002年に下北沢に誕生した、しもきた空間リパティという芝居小屋の柿落として写真展をしたんです。芝居小屋なのに写真展。路上ペンギン写真の展覧会。そこにひょっこり現れた時、どんなにビックリしたことか！写真と一緒にペンギングッズの



来た人々、しかも小沢さん御用達のお煎餅屋さんのご主人も、お煎餅を持って来てくれました。ラジオ凄、永さん凄、いって改めて思い知った瞬間でした。

そして月日は巡って2013年、松元ヒロさん、林家彦いちさん、山田雅人さんの会にゲスト出演した清瀬けやきホールで、運命の出会いを目撃したので、永さんを心の師と慕う高田文夫先生が、同じ舞台上にサプライズで登場したのです。心臓停止から奇跡の復活を遂げた高田先生が、車椅子にあってもライブトーク続ける永さんと、数十年振りに生の舞台上で再会したので。

これがきっかけで、北沢タウンホールこのふたりのトークライブに繋がっていき、愛情溢れる高田先生のマシンガントーク、呼吸困難になるほど笑い転げる永さん、日々出会ってような親密で濃密なひととき、そして迷わず上野翁庵、僕が一番好きな蕎麦超役得、ご兩人と銀の輔屋さん。周りのおじさん連に倣って、夏のあり得ないスリーだけと熱燗、ネギせいろの天抜きを肴に

献杯です。永さんに会えたこと、僕は生涯自慢します。ふと横を見たら、志ん朝さんの色紙が微笑んでいました。本当に遠くへ行った永さんへ…。

表札には永住町とありましたが、今は元淺草っていうんですね。住宅に挟まってる大小のお寺が点在するエリアに、最尊寺があります。今はモダンな本堂ですが、永さんが子供の頃は、きつと木造の寺町だったんでしょうね。ここで催された落語会には、ついを駆けませんでした。永住町、永さんが住む町、ですね。

六の正蔵さんがいた四軒長屋もラスト一軒、目の前にあった同潤会上野下アパルトメントも、立派なマンションですよ。すぐ裏の寿湯は正蔵さんが通った銭湯とか。折角なんでひとつ風呂、露天風呂から稲荷町の夕暮れを眺めました。



高級句誌
俳人同様
Kaijin Doyo
三朝庵梅里・筆
SAN CHO AN BAI RI



江戸川墨田の両区の境、S字蛇行の旧中川は、名所図絵やら江戸百景、広重愛した欠かせぬエリア、大正末期に荒川に、分断されての七き口弱の、江戸川区側を見て歩き、スタート地点が水門ならば、ゴール地点も水門で、憎き荒川横目に流し、ゆったりのんびり穏やかな、水面も、そのためか、三々五々の

水門と護岸で手なづけ緩き川 梅里

思い出は甘く優しく苦きこと



夏の風命の水のありがたさ

釣り人ど、ひなたぼっこのおほあきさん、家庭菜園胡瓜茄子、マンション工場沿道に、スカイツリーは対岸に、江戸の昔は防衛上、橋架けられずに渡し船、平井逆井番所の渡し、今は昔の川模様、保育園と幼稚園、何故か集まる聖天様、土産は手焼きの煎餅か、ちよいと寄り道平井駅、作家も詩人も通いたる、ホットを越えたなら、再び荒川大団円。

釣り人ど、ひなたぼっこのおほあきさん、家庭菜園胡瓜茄子、マンション工場沿道に、スカイツリーは対岸に、江戸の昔は防衛上、橋架けられずに渡し船、平井逆井番所の渡し、今は昔の川模様、保育園と幼稚園、何故か集まる聖天様、土産は手焼きの煎餅か、ちよいと寄り道平井駅、作家も詩人も通いたる、ホットを越えたなら、再び荒川大団円。

旧中川の旅(江戸川区版)



水運の岩成風堂々と

コンビニも餌を揃えて客を釣る



北口番外編

東京大塚カウンター異聞
K'sバーの人々

「今日の一時間目、なんだっけ?」「古典だと思っけど」「かったるいなあ、ジジイの店行こうよ」、「昨日も行ったじゃん」、「いいよ、学校にはお腹痛いとかが言っとけばよ」、「アハハハ、お腹お腹」

* * *

僕は毎朝八時に大塚駅の自由通路を潜って店に行くんだけど、ちょうど同じ頃が、界限の学校に向かう生徒の通学時間だ。北口に出た生徒たちは綺麗に三方向に別れる。右に向かって歩くのは十文字学園の子、左に向かうのは集鴨園の子、そして駅を背に真っ直ぐ歩くのが文京高校の子。十文字は女子校、集鴨は

男子校、文京は都立だから男女共学、朝の大塚駅北口の通学風景は、理想的な配分で男女が分かれていくのだ。

最近の高校生はでかい、そして足が長い。座高だつたら負けないけど、トーナルバランスが思い切り昭和の日本のオジサン体型な僕は、彼等に埋もれるように文京高校方面に歩く。僕が高校生の頃から比べると、女の子はおしなべて可愛くなって、普段着だつたら女の子じゃなくて女の人だらうなって思う子もいるけど、男の子は相変わらず男の子なのでホツとする。でも僕は彼等の親よりも祖父母に年齢が近いに違いないのだ。

都電の線路を渡ってすぐのプレハブな建物が僕の店。鍵を開けて、郵便受けからこぼれ落ちてる朝刊を拾い上げ、ドアを開け放って狭い店に定んだ昨日の空気を入れ替えてると、高校生たりがドツサリ店の前を通り過ぎて、校舎のある折戸通りへと向かっていく。ちゃんとカッパルで通学してる子もいて、僕らの時代では考えられないけど、行き

も帰りも、同性同士の集団が圧倒的。まあ朝は下校時ほど開放感がないので、賑やかな集団は殆んどいない。そんな中で偶然耳にした女子高生ぶたりの会話…

* * *

ジジイの店ねえ、何だろ? ババアの店といえは駄菓子屋と相場は決まってるけど、お爺さんの駄菓子屋なんて聞いたことがない。第一大塚に駄菓子屋はないのだ。もっとも十代の子が言うジジイは、僕が思うそれよりずっと若い。うっかりすると「アタシが子供の頃は」とか平気で言う女子高生、僕だって充分ジジイの資格がある。君らは今でも子供だよなんて言ううもんなら、「黙れジジイ!」くらいいいいそつだ。例えは僕ら世代の男がやってる店だつたら、選択肢はグツと広がる。ああそうか、喫茶店か、いや喫茶店に違いない。でも高校生は喫茶店に入っていないのかなあ、停学にならないのか? 時代錯誤か? マックやコンビニに制服のまま平気でいるんだから、喫茶

店くらい何の問題もなからう。でも文京高校に行くまでの間に、喫茶店は『わたや』しかないし、この時間はまだ開いてない。文房具屋も本屋もない、ローソン1000ってこともなからうし、セブンイレブンは学校の真ん前、そりゃ無理だし、一時間は潰せない。

でも折戸通りじゃないとしたら? うちの前を通ってそのまバー『ムー』の角を左折せず、その手前の元スナック風なレンガ壁の建物を左折し、『大塚美容整形外科』の角を右に曲がらず、左折して坂を降りちゃう。そして再び都電の線路を渡って宮仲公園通りに出て、ジジイの店に向かうという作戦だ。だからといって宮仲公園通りに、そんな店があるわけもない。ちよっと前までは、あった

編集後記のようなもの

人の縁ってのは不思議です。何故僕は永さんと志ん朝さんや談志さんに会えたのだろうか? 何故物を書く仕事をしたり、ペンギンを抱えて写真を撮ったりしていたんだろう? 何でもきっかけは

のだ。もう名前も忘れたけど、元競輪選手だったお爺さんがやってた喫茶店。「この脚で家二軒建てて、一軒は遊んで使い果たし、今はごっだけ」っていう豪快な人だった。大塚の空襲も経験した貴重な証言者だったけど、いつの間にか閉店し、それっきり。その頃は癌研通りだった道も、癌研研究会病院が移転してランドマークを失い、その手前にある宮仲公園の名前を頂戴し、宮仲公園通りになった。大塚も変わったってことか。

* * *

彼女たちを尾行したかったが、これは立派な犯罪だ。しかも今日は仕事も目白押し。またいつかこの言葉に出会えることを願って、断腸の思いで諦めた。ジジイの店ってなんなのだろう?

小さなことなんだろけど、山と山とは出会えぬが…ってやつでしようねえ。さようなら永六輔さん。★配布協力感謝・千駄木・古書ほうろう、吉祥寺・ブックスルーエ、雑司ヶ谷・旅猫雑貨店、法善寺横丁・洋酒の店路、築地・ふげん社。浅草・珈琲アロマ。



高級句誌
俳人同様
Kaijin Doyo
三朝庵梅里・筆
SAN CHO AN BAI RI



江戸川墨田の両区の境、S字蛇行の旧中川は、名所図絵やら江戸百景、広重愛した欠かせぬエリア、大正末期に荒川に、分断されての七き口弱の、江戸川区側を見て歩き、スタート地点が水門ならば、ゴール地点も水門で、憎き荒川横目に流し、ゆったりのんびり穏やかな、水面も、そのためか、三々五々の

水門と護岸で手なづけ緩き川 梅里

思い出は甘く優しく苦きこと



夏の風命の水のありがたさ

釣り人ど、ひなたぼっこのおはあきさん、家庭菜園胡瓜茄子、マンション工場沿道に、スカイツリーは対岸に、江戸の昔は防衛上、橋架けられずに渡し船、平井逆井番所の渡し、今は昔の川模様、保育園と幼稚園、何故か集まる聖天様、土産は手焼きの煎餅か、ちよいと寄り道平井駅、作家も詩人も通いたる、ホットを越えたなら、再び荒川大団円。

釣りの笑顔あり、総武本線ガードを渡り、かき上げ護岸の堤防は、荒ぶる時代の中川証拠、荒川西を出た都電、日比谷に向かう二五番、渡った橋も今いすこ、富士塚登頂京葉道路、抜けてしまえば一直線、釣りの餌はコンビニ新宿線、東大島駅寄り、風の広場の公園に、古き水門幾星霜、ロックゲート

旧中川の旅(江戸川区版)



水運の岩成風堂々と

コンビニも餌を揃えて宮を釣る

